



## 1. 日時

令和3年12月15日（水曜日）19時00分～20時50分

## 2. 場所

生涯学習センター 学習室1

## 3. 出席者

委員：高村会長（市長）、山下副会長（補導センター運営協議会）、志田副会長（青少年育成市民会議）

岩佐委員（教育長）、丸山委員（学校教育課長）、福室委員（県立裾野高等学校教頭）、勝又委員（富岡第一小学校校長）、渡邊委員（西中学校校長）、齊藤委員（沼津地区保護司会裾野支部）、後藤委員（区長連合会）、井出委員（裾野市PTA連合会）、室伏委員（県立裾野高等学校PTA）、相川委員（西地区子ども会）

（出席13名、欠席3名）

事務局：大塚生涯学習課長、長田主任、大森社会教育指導員

## 4. 議事要旨

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付

高村市長より交付を行った。

### 3. 会長あいさつ（高村市長）

当協議会は、青少年の健全育成に関して様々なご意見をいただき貴重な場である。青少年の育成には、行政の取り組みのみでなく、地域社会のバックアップが必要。本日は、少子化が進む現代社会の中で、「地区子ども会の現状」をテーマとして協議を行う。活発な協議により、様々な意見をいただきたい。

### 4. 青少年問題協議会の役割

○条例をもとに協議会の役割を説明

- ・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な事項を調査審議すること
- ・青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図ること

○副会長2名を選出

事務局より、山下委員・志田委員の2名を提案→承認



○前年度の協議内容

「ネットいじめの現状と対策」をテーマに協議

5. グループワーク

○協議事項「ふるさと裾野を誇りと感じる子どもを育てるために」について

- ・第2期裾野市教育振興基本計画の基本理念「学びあい、高めあいながら、人間性豊かに未来を目指す人づくり」と、子どもたちのシビックプライドの醸成を結び付けて協議事項を設定した。
- ・地域ぐるみで青少年の健全育成を行うという観点から、「市内の地区子ども会」に着目をした。

○子ども会について

- ・市と子ども会の関わり

市内には、行政区単位などで構成する単位子ども会、中学校区の5地区の子ども会、その上部組織となる裾野市子ども会育成連絡協議会（市子連）がある。

市子連は、過去には市内5地区の80以上の単位子ども会が加入する大きな組織であったが、様々な事情により市子連の脱退が続き、現在は西地区の8つの単位子ども会のみが加入。市は市子連に対して補助金の交付を行うだけでなく、事務や事業のサポートも行う。また、市子連に加入すると、全子連の安全共済に加入できたり、県子連が主催する指導者養成研修に参加できるメリットがある。

5地区子ども会、単位子ども会（複数の子どもの会で事業実施）にも事業実施に対する補助金の交付を行っている。（市子連・5地区子ども会、単位子ども会への補助金→令和3年度予算措置60万円）

- ・子ども会の目的

子どものみならず、多様な年齢、立場の人との交流を通し、人間関係や信頼関係を構築すること。

- ・子ども会活動の在り方

子どもを主体とした活動であること、子どもと大人（育成者）が遊びを通して交流すること、地域を基盤とした活動であることが重要である。

○市内子ども会の現状について

- ・子ども会衰退の急速化

市内子ども会の現状について把握するため、市内85区へアンケート調査を行った。その結果、令和元年度から令和3年度までの2年間で、13個もの子ども会が廃止されていることが判明した。

- ・問題点

・少子化・保護者の負担・事業計画の苦勞（コロナ禍）など



- ・工夫
  - ・保護者の負担減のため、役員を減らす、連絡回覧等はSNSを活用
  - ・会員以外でも楽しめる行事、コロナ禍でもできる行事を計画する
  - ・地区の有志に協力してもらう。
- ・課題
  - ・保護者同士の繋がりや地区との交流
  - ・地区との協力体制を整える
  - ・ライフスタイルの多様化に柔軟に対応できる子ども会組織の改革

#### ○山下委員講話

市子連会長でもある山下委員より、子ども会の問題に最前線で直面している当事者として感じていることなどについて話してもらった。

・昔は3世代が同じ家で子育てをしていたのが当たり前であったが、今は核家族化により昔のやり方が通用しない。

・習い事などにより子供たちが忙しくなっている。スポーツなどは結果がすぐに見えるのに対し、子ども会は成果が求められているものではないため、その目的があいまいになってしまう。

・子どもは9歳までに色々な人間と関わることで集団行動を学ぶ。子ども会は、子どもが地域と繋がるための第一歩として、絶対に必要であると考えている。子ども同士、親同士の横のつながりだけではなく、地域と子どもが繋がる「ななめの関係」を構築していくことが大切。

・親にとって「役」はきついものではあるが、強制ではなく、当たり前になることが望ましい。そのためには親だけではなく、地域のボランティアなどのサポートも得ながら、全体で取り組む必要がある。

#### ○グループワーク

メインテーマ「ふるさと裾野を誇りと感じる子どもを育てるために  
子ども会を通じて、子どもの成長を促す行政の施策を協議」

#### ★グループワーク1

「子ども会のメリットとデメリット」「デメリットの解決策」

##### メリット

- ・子ども同士・親同士の交流ができる
- ・親同士が子育ての情報や悩みを共有できる
- ・子どもが充実感や達成感を得られる
- ・集団行動を通して、子どもが社会的役割や社会的常識を学べる
- ・異年齢間の交流ができる
- ・コミュニケーション能力が向上される
- ・地域との繋がりにより、地域への愛着が醸成される



- ・地域の人たちを知ることができる
- ・家庭、学校以外の居場所になる
- ・活動を通じて子どもの普段見られない姿を見ることができる

#### デメリット

- ・保護者の負担が大きい（役員、会費）
- ・目的がよくわからない
- ・企画、運営が難しい
- ・子どもが少ないため、行事の計画ができない
- ・休日の過ごし方が多様化し、行事参加が難しい
- ・保護者の考え方が多様化し、価値観の共有が難しい。
- ・子ども会への理解や関心が希薄になっている
- ・区も子ども会も一年で役員が交代するため、課題が引き継げない

#### 解決策

- ・子ども会を無くす、ゼロベースで考える
- ・会費ではなく、なるべく公費で運営（行政、区）
- ・区が協力をする、地域でやる気のある人を探す
- ・行事は一つだけにして、それを成功させることを目指すことで、子ども親も達成感を得られる
- ・計画や運営にOBを活用する（中高生・高齢者など）
- ・幼児・小学生のみでなく、中高生も一緒に参加するなど、年齢のくくりには囚われない世代を超えた交流をする
- ・他の社会活動と連動する
- ・子ども会の中でも、保護者間で対話する機会を設け、問題共有をする

#### ★グループワーク2

「地域ぐるみで子どもを育てていくために、「行政」「子ども会」「地域」がどのような役割を果たすべきか」

##### 視点①地域の一員として

地域住民自らが、人口減少・少子高齢化といった地域の現実を受け止め、地域を時速していく

##### 視点②大人の責務として

子ども会の問題を地域の問題として捉えて、地域の子どもは地域で育てていく

#### 「行政」の役割

- ・区、子ども会のパイプ役として、子ども会の必要性を発信する
- ・地縁団体の担当同士の課を越えた連携（区長、子ども会、婦人会など）



- ・地域力の弱い地域を積極的に支える
- ・地域への支援（情報、金銭、人員）
- ・全国的な事例の情報提供（地域の特徴、背景、環境）
- ・地域のリーダーの育成
- ・地域の活動拠点とするための公共施設の開放
- ・子ども会という組織にとらわれない、子どもにとって本当に必要な支援を行う
- ・地域の活動に協力する事業所にメリットを与える
- ・行政主導の勉強会の開催

#### 「子ども会」の役割

- ・子ども会の目的を共有し合う
- ・子ども会活動の良さを地域に発信し、地域ぐるみの必要性を訴える
- ・SNSなどを活用し気軽にHELPを発信できる環境づくり
- ・企画・運営など、子どもに役割をもたせる
- ・従来の子ども会組織を見直す
- ・親にとっても楽しい、自分たちのためになるような活動を計画する
- ・子ども、親、地域の人たちが集まれる事業を計画する

#### 「地域」の役割

- ・「子は社会の宝」という意識の共有し、子ども会を応援する
- ・地域における団体・組織を見直し、それぞれに合った支援を行う
- ・地域の行事へ子ども達を招待する
- ・子ども達への声掛け（あいさつ）を積極的に行う
- ・公民館などを活用し、居場所を設ける
- ・地域の中でやる気のある人を募集するなどして探す
- ・コミュニティースクールに参加し、教育現場を知る
- ・時間も元気もある高齢者が頑張る

## 6. 閉会